

ないように色々な問題を自分の代で完結したいなど思っています。私以外の今日のそうそうたるメンバーのお話で、実行委員会を別に立ち上げた取り組みなどは、なるほど、そういうやり方がいいんだなと思いました。

今は、コロナの影響もあって、役員だけでは回らない部分が出てきていて、有志で動くことが多くなりました。草刈りも今までは皆さんに集まってもらってやっていましたが、全て有志でこの3年間やってきましたね。それに、ご近所でも直接お話しする機会が減ってしまって、なるべく顔を見て話をして、相手が何を想っているのかということを受け止めながらやっていかないと、孤立してしまうのではないかという危機感もありますね。

とにかく足をむけて直接話をして、意見を伺うことで、自分の中で納得させていただきながら、この3年半やってきましたね。市役所にしたら「またあのエプロンつけたばあさんが来たか」ぐらいに思われているかもしれませんが(笑)。

杉山さん 木内さんは、お一人暮らしの老人の方を随分訪問されたそうですね。きっと皆さん、顔を見てお話をすることで、安らいだ方がいらっしゃったんじゃないかなと木内さんのお話を伺っていて感じました。木内さん、自治会長が終わったら何されるんですか？

木内さん 先月、定例委員会の7名でインタビュー集を読んで、今度は役員だけで背負うのではなくて、分散させて、草刈りは有志でやろうという話がありました。それこそ「草刈りなら一生やるよ」って言ってくれる人もいますので。

杉山さん いるんですね。草刈り好きな人(笑)。

木内さん 率先してやってくれるそういう人たちにお願いして、リーダーシップを取ってもらえると「役員の負担も減るね」って話になりました。

杉山さん 自治会長のコントロールで、草刈りをやるのではなくて、草刈専門部隊が出来上がる。それは凄いな。

木内さん お祭りもそうですね。私なんかはお酒を飲むのが好きで、仕事の場を離れたところで人間関係がうまくいって思う人間なんですけど、お酒を飲むのに時間を割けない人や、お酒を飲むことに前向きではない方もいます。ですから、お祭りごとも手を上げてもらってやっていただくのがいいかなと。

杉山さん 公にしちゃうと難しいことが、有志にすると動くってことがあるんですね。

木内さん 得手不得手って誰にでもあると思うので、そういう人が手を上げてもらうとうまくいくと思いますね。

杉山さん 秋葉さんのお話とか参考になりましたね。

木内さん そうですね。

杉山さん うれしいですね。秋葉さん。自分が努力したことが他所でも活きるっていうのはね。

ところであの、富里って、みんな焼きそば焼くの好きですよね？どこの自治会でも何かっていうと焼きそば焼いて、みんなで食べてるんですよね(笑)。木内さん、焼きそば焼くの上手そうですね。



焼きそばで集う桜台集会所

木内さん いやいや。男の人たちが汗だくになってやっています。私は、「準備はいくらでも任せてください！」って言っています。

杉山さん 自治会長で全体を見られていた方が、今度はネットワークの一つとして焼きそばの準備をするというのが、桜台の強い自治力になっていくんだなと思いました。ほんとに木内さんのお話を聞いていると、優しい気持ちになるというか、やる気が出るというか。こちらが勉強になります。ありがとうございます。

杉山さん それでは高谷さん。高谷さんは区長会の会長でもいらっしゃって、今回の事業の実施を決断していただいた方なんですけど、お会いする前は、何十年も自治会長をやられていると聞いて頭が下がる一方で、どんな凄い人なんだろうと怖かったんですね(笑)。でも、お会いしたらとても優しい方で、若い頃から仲裁するのが得意というのを伺いました。前半第1部の最後になりますが高谷さん、皆さんのお話を伺ってご感想とかいかがですか。

高谷さん 私も長い間やってきた中で、色々経験してきました。最近、こうやったらいいと言われていた事が今ではまったく逆の事をやっていたり、色々と自治会の中で起こったりしているんですよね。今までの皆さんのお話を聞いていて、「なるほど、私もそんな体験があるな」ということを思い出していました。

草刈りのお話で、うちは3年前から草刈隊というのを募集しています。その草刈隊の10人ぐらいで全ての公園や空き地の草刈りを年に5回程やっています。今までは、全員に声をかけてやっていたんですが、「高齢化だから草刈りも業者に頼んだほうがいいんじゃないか」という意見が最近よく出ていましたね。

でも、私は最初から思っていたんですが、自治会は人の集まりですから、「人が集まる機会を多く作らないと自治会じゃない」という観念でずっとやってきていました。「草刈りもその一つですよ」ということだったんですが、やはりどうしても全体の意見なので、「じゃあ、専門の草刈隊を作ったらどうか」という提案をして、始まったん

です。その時代で考え方が変わっていくものなんだなというのを実感していますね。

杉山さん 高谷さんに伺ったお話の中で、若い頃、社宅の代表として近所の町内会に入られるんですよね。東京の下町ですかね。

高谷さん はい。荒川区の日暮里の近くなんです。

杉山さん 若い頃、社宅の代表として地域の町内会に顔を出すとオジサンたちが色々やっていて、気性の荒い人もいるけど、うまくまとめるっていう状態をご覧になったと。その時のお話をもう少し伺えますか。



自治会報にある草刈隊員募集の記事

高谷さん 大きな社宅だったので、会社員だけで固まっていた、地域の人とはあまり付き合いのない状況でした。周りの町内会から「そういう状態じゃまずいんじゃないの」と何回かアプローチがあって、ある時に、確か2代目の代表として私が出ていったんです。

その地域は、それぞれに守り神がいて、各神社でお祭をやっていました。浅草の三社祭とかは有名で統制が取れていますが、それ以外の小さなお祭は、どこも親父さんが出しゃばりすぎて「こうした

ほうがいい」、「ああしたほうがいい」って喧嘩してるんですよ。でも、そこをうまく話をまとめる年長さんみたいな人がいて、結局、お祭が楽しく盛大に終わっているっていうのを目の当たりにしていました。そうやって、社宅の代表として出て行ってみんなで楽しんだという経験がありました。

富里に移った時も、まだ 30 世帯ぐらいの小さな団地で、すぐ馴染んで納涼祭みたいなのをやりましたね。でも、そのうち世帯が増えてくると全部が同じ方向を向かなくなってくるんですよ。そういう時に、「ああそうだ、あの時のオジサンたちのようにすればいいのかな」と、思い出しますね。

杉山さん 年を重ねると、若い頃に見た先輩達の凄さがまたよく分かってくるということですかね。高谷さんを見ていると、ほんとに色んな問題を吸収して皆さんの共通の認識に変えていくということを地道にされている方だなと思います。

自治会を起こした当初も浄化槽の事で大変だったんですよ。浄化槽の管理費がうまく運用されていなかったんですか？

高谷さん 本来であれば浄化槽を自治会に引き渡した時に、それまで入居者から集めたお金が余っていたら返すということになっていました。でも、全部使ってしまったということで、電気料とか色んな事を調べたら、まだかなりの額が残っているだろうと、返す、返さないの交渉をしていたのが、私が富里に移ってきた時でした。

インタビュー集にも少し書いてありますが、裁判をしようという人もいたんですが、調べた結果、返してもらうのは何千万もあるわけではなかったので、裁判をして何年もかけて結局ほとんど残らないということになったらその時間がもったいないと思ったので、「裁判はやめて別の方法で現実的に自分たちの浄化槽をどうやって維持するかという方向でまとまりませんか」ということで自治会長をやり始めたんです。



自治会長になるきっかけとなった浄化槽

杉山さん 極端な意見が色々あったけど、それを調整されて皆さんの納得を引き出していく。その時に自分が自治会長として、調整役をしていかないといけないと決意されたのがスタートだったんですね。それが今も続いていて、何があっても動じないで皆さんのために尽くされているという。

高谷さん 「動じない」というのは違いますね(笑)。いつもグラグラして、言われたことに「ああそうかな」と思うけど、でも、すぐに納得するタイプではなくて。

杉山さん 高谷さんは、いつも共感されていますよね。それぞれの違う意見の方に共感されることでご本人は「揺れてる」とおっしゃるけど、必ず共通点とか一致点を見出そうとされて共感されているということが良く分かって、私もこういう大人になりたいなどお話を伺ってずっと感じていました。

【第1部質疑応答】

杉山さん それでは、会場からどなたかご質問ございますか？それでは五十嵐市長お願いします。

五十嵐市長 貴重なお話をありがとうございました。改めて皆さんのご苦勞、そして今現在の地域の在り方等々も含めて参考にさせていただきました。ありがとうございます。一点だけ伺いたいと思います。コロナ禍で各自治会は、ご苦勞される活動が続いていると思います。その運営方法も恐らく各自治会で異なってきていると思いますが、「うちの自治会はこうしているよ」というようなことがもしあればお伺いしたいのですが。

杉山さん 「感染症で色々動きが取れなかったけど、こんな工夫をしました」という事があればどなたかでは、安藤さん。

安藤さん 私が1年目の4月ですかね。緊急事態宣言が出てしまって、ちょうどその頃公園とか空き地の草刈りが始まる時で、それまでは住民の方の協力を仰いだり、幹事さん17名の半数の協力でやっていたんですが、役員さんに頭を下げて、「今年一年だけはどうぞよろしくお願いします」ということで、役員だけで1年間通しました。あと、役員、理事、幹事全員集めると20名以上になりますので、年度末に向けて理事会だけとか役員会だけとかでやりました。

一番大変なのは総会なんですけど、昔からうちの自治会は総会案内に委任状をつけて全戸配布して、幹事さんに委任状を集めてもらっていましたので、今までと同じやり方でできました。住民の過半数があれば総会は成立して、提出された委任状の半数があれば議案は成立します。区長会でも書面決議ということでやられていましたが、今まで通り、集会はしないけど総会は開くということで今までと変わらないやり方でできました。

杉山さん 秋葉さん、何かありますか。

秋葉さん 両国区は子ども会で資源回収をやっているんですが、紙の収益って大きいんですよ。

杉山さん そうなんですね。

秋葉さん 区長になって区の過去の収支も確認してみたら、結構な収益なんですよ。でもコロナで子ども会の活動が一切できなくなって、資源回収もできないということで、休止したいと。今は、それを区で引き継いでやっています。

杉山さん 結局、子どもが集まって街の役に立つみたいな体験は残せない感じだったんですね。

苦しいですね。今日のこの事業自体がコロナ禍で、感染症対策の一環というか、どこかに出かけて研修というわけにいかないのでも地元でしっかり勉強しようという形で生まれたんですよ。

杉山さん 野並議長何かご質問とかございますか？

野並議長 私が3年間、お預かりした自治会も40年ぐらい前に住宅開発された南平台でしたので、皆さんのお話を聞きながら、集中浄化槽の維持管理の問題、不在家主の問題、本当に私も苦労したなどいうのを思い出しながら聞かせていただきました。住んでいる皆さんが年を取ってくると、草刈りの問題がありまして、私が自治会長をやっている時も外注してほしいとか、色々言われながら皆さんと相談しながらやったなあ思い出しました。

結論としては、お話に出ていたような草刈部隊とスクールガードをやっていただけの見守り隊を別に作ったのを思い出しました。私が自治会長を離れた後で問題になったのは、それを続けていくということで、今手を上げてくれた方達も年を取っていくわけで、新しい人との入れ替えというのが今まさに直面している問題で、皆さんの中でどういったお考えなのかということをお伺いしてみたいです。

杉山さん 上村さんいかがですか？ヒアリングでも世代交代が大事だとおっしゃっていましたよね。

上村さん 元々私は自治会長になる前は役員をやっていましたが、その時は、自治会長というのは定年過ぎた人がやるもんだと思っていました。でも前の自治会長が、「バックアップするからやってよ」って。定年まで2年あったんですけどね。それでもう10年(笑)。

自治会は定年してからでないとも中々難しいところがあるなと思うので、いまだにやらせてもらってますけど。ゆくゆくは回覧だけを回すようなことになるかもしれませんが、できる限りやってくれる人を探していくしかないなと思っています。

杉山さん 人によるってことですね。やることを減らして地域のコミュニケーションを保てればという部分もあるという。そこまで考えないといけないというちょっと達観したご意見を頂きました。

杉山さん 高谷さんいかがですか？

高谷さん 後継者の問題はどこでも問題になっていて、今やっている人がいかに次の人を探すかになっているようですが、私は、こちらに引っ越して来て自治会長になってからも都内に勤めていたんです。今でも行ってますけどね。やる気といかにして自分だけでやらないか、仕事を分散して負担をできるだけ分散すれば別に会社員でもできないことはないと思っているんです。

私は今も色んな所に顔を出していますが、その度に高齢化社会だからと言って、確かにそういう時代ですけど、動けない人を高齢者と言っているわけではなくて、ある一定の年齢になった人を高齢者と言っているだけで動ける人はいっぱいいるんですよ。そういう人たちにいかに関わってもらおうかだと思っています。それと先ほど言ったように自治会運営を長くやるには仕事を分散することが必要だろうと。でも、役員を多くすると順番が回ってくるのが早くなるので嫌だという人もいて今は考え方も多様ですね。

私の信念としてはできるだけ幅広く体験してもらおうことが大事だと思っていて、何でもいいから、例えば自治会費をただ1年間集めるだけ役員としてやってもらうとか。そうやって、人との繋がりを大事にしていきたいと思っています。

杉山さん 仕事をシンプルにして、1つだけでもやってもらって、達成感を味わってもらえるように人を繋いでいくということですよ。それを長年やられてきたのがヒアリングの中でもたくさん伺えて敬服するところでした。

最後に安藤さんのお言葉ですけど、「自治会の皆さんに救われました。みんなとコミュニケーションをとりながら自分の住む街のことに関われるのは幸せなことですね」っておっしゃったのがすごく残っています。考え方が多様化すると言われていますが、自治会活動を負担にするのか、楽しみにするのか、自分の生きていく糧にするのかが、何か一つのポイントになるのかなど。自分の街のコミュニティの運営に関わることが楽しいんだという価値観が皆さんのお話で浮かんできます。富里の自治会はそこが凄いと私は感じました。

あの、木内さん、来年の桜台の焼きそばパーティーの時は、必ず来ますので日程を教えてください。焼きそば食べに行きますから。ファミリータウンもお祭りが復活したら遊びに行きますのでぜひよろしくをお願いします。

それでは第1部この辺で終わりにしたいと思います。皆さんどうもありがとうございました。

【第2部】

杉山さん 皆さん第1部いかがでしたでしょうか？ 今回の「Talks」は私がヒアリングをして、文書にまとめるのは、こちらの会場にいる区長会事務局の市役所の職員さん。彼らが必死に書いたんですね。それを私がめった切りにして。編集って楽ですよ（笑）。でも、短い文書の中でヒアリングのテイストを全部拾って、言葉を正確に再現しながら。本当はこの3倍も4倍もデータがあるんですが、それを分かり易くまとめるということをやってくれて。これ自体が市役所の職員の大きな研修になったんじゃないかと思います。

文書で表現することも、自治会の活動を見つめる目も養われる素晴らしい仕事になったんじゃないかと思います。それを見守った課長さんも含めて富里市役所の住民自治を観る目の質の高さも感動の一つでした。そういった想いの詰まった冊子ですので何度も読み返して頂ければと思います。

杉山さん さて、それでは、第2部を始めたいと思います。竹下さん、お久しぶりでございます。

竹下さん お久しぶりです。

杉山さん 竹下さんとは2度、3度とお会いして。ほんとに竹下さんの笑顔に包み込まれるような心地のいいヒアリングをさせていただきました。お話の中で一番凄かったのが、「自治会って何ですかね」って、私に質問されるんですよ。

竹下さん そうですね。経緯からお話させていただくと、私が今の6丁目に引っ越してきたのが7、8年前で、58歳の頃に今の家を買ったんです。その時に周りの人から「自治会に入りませんか」って話があった時に丁度不在で、妻が勝手に「入ります！」と言ったんですね。本当は、私は入ろうとは思っていませんでしたが、家族が言っちゃったから何となく入った感じで、それが始めだったんです。

2年目ぐらいに役員が回って来た時は会社員で東京の事務所まで往復4時間ぐらいかかるので当然平日は何もできない。やるとしたら土日だけでしたので断ろうと思っていたんですけど断られる雰囲気でもなくて。でも、今考えるとそこで断ることが出来ていたら今の私はいなかっただろうと。自治会長としてこんな活動はしていなかっただろうと、そう思うんです。

先ほども高谷さんからお話がありましたが、自治会は人と人との繋がりだと。まさしくそのとおりだと思っています。今5年目になりますので役員の方も顔を覚えてくれて、道で会うと挨拶してくれて、こちらからも挨拶を返して。そんな感じで住民の方の顔を少しずつ覚えてネットワークを作りながらやっていますね。答えになっていないかもしれませんが、自治会とは、一言で言うと「人との繋がり」ですかね。

杉山さん その時、すごく印象に残ったのが「自治会って入るとか入らないとかを選択するというのではなくて、地域の運営に係る費用はみんなが払うもので、入るとか入らないとかを訊くこと自体が変だ」とおっしゃっていましたよね。訊かれたら、「入りたくない」と言いたくなるじゃないかと。制度としての自治会と有志でその土地の運営をすることがうまく噛み合わないといけないなどというような結論でしたかね。

竹下さん そうです。ですから、自治会という名前の中で「入る」「入らない」というのがどうしてもできてしまって。6丁目は480世帯あって会員は380世帯。100世帯は自治会に入っていないんですね。私が自治会長になって役員さんに話をする度に「日吉台区として住民の方みんなでやりたいな」と言っているんです。区に住んでいる人みんな参加ということで。ただ、それを実現するのはハードルが高いですね。

杉山さん 私は「自治会って何ですか」と竹下さんに聞かれて、その時に色んな事が頭に浮かびましたね。西日本の若者宿のこととか、村長(むらおき)と村人の全員で合議していた世界とか、山林の入会権の話とか、浅井長政のところの惣村の話とか。戦争を経て大政翼賛会の中に組み込まれた町内会であったり、その後、「戦後民主主義」と言われて組織がまた再編されたこととか。

今の富里みたいに組織というよりはネットワークで動く凄く地道な活動が営々と主体的に行われている中であって、さて、地域の運営と自治会という器と地域にいる人全員を拾えないのかという悩みとか。私も竹下さんのおかげで「住民自治とは」「地方自治とは」ということを改めて考えさせてもらえました。

日吉台6丁目は防災とか防犯や、カフェとか独立した動きをどんどんネットワークで作って、役員じゃない人も自分のやりたいことで自治会の集まりに参加できる状態を作ってこられましたね。

竹下さん そうですね。それまで防災、防犯、行事は副会長が担当していたんですね。会長も副会長も大体1、2年ぐらいで交代しちゃうんです。そうすると、ぶつ切りになって繋がりが無くなってくる。そのことを私が自治会長になって一番考えて役員さんと相談しましたね。

杉山さん そうするとせっかく防災などの蓄積された知識とかも一からやり直しですよ。

竹下さん そうなんです。他の役員さんと相談していた時にある方が、自分が得意なものに入ればやってくれるんじゃないかと。専門部の形にして、今年で3、4年目になりますけど、防災部なんかは今年、災害時の住民行動マニュアルと防災部の役員のための行動マニュアルを作って、住民行動マニュアルは480世帯に全部配布しました。「災害の時に自治会としてはこう動きますよ。時間がある時に読んでください」と配布したんです。行事部も今年すごく活躍してくれて、夏休みにラジオ体操をやったんです。そういう提案をしてくれて、行事部で取り上げてくれたんです。私は仕事があるので参加できなくて、5人か10人ぐらいしか参加してないのかなと思っていました。ところが実際は、30人以上来てくれていたと。大正解だったな、得意な人たちに任せて良かったなと。ほんとに感謝したいと思っています。



ラジオ体操の会場となった公園

杉山さん 日吉台は駅の近い便利な所で沢山の人がお住まいですが、そこでもまた後継者とか色々大変だったけど、協力してくださる皆さんに分散してうまくいった形になったんですね。ありがとうございました。

杉山さん 中野さんの所もすごく防災のことに取り組まれていましたよね。

中野さん 東立沢は130世帯なので、多くもなく少なくもなく、一人一人が良く見える団地です。防災のお話をさせていただくと、この前の台風の時に一番困ったのは1週間ぐらい停電して、市役所に行っても携帯の充電をするのに30分待って30分しか充電できないような状況でした。それを聞いたので、東立沢独自の防災無線で、「参集してください。携帯を預けておけば、自宅の仕事ができますよ」ってお知らせして使ってもらいました。

発電機は備えて良かったなと思いましたね。普通、発電機といえばガソリンとか軽油とかを使うんですが、これはカセットボンベを使って発電ができるんです。

杉山さん カセットコンロに使う小さいボンベなんですよ。

中野さん そうです。それを2本入れて発電するんです。各家庭で1本は持っているだろうと。いざ、足りなくなった時は持ってきてもらって補充できますからね。それを今は2台備えています。

杉山さん 北海道なんかは2,000人とか3,000人っていう小さい自治体があるんですよ。なんかその町長とか村長の話の聞いているみたいな感じですね。会場のスライドにも映していますが、必要な飲み水とか食料とかを整理して会館に置いてありますよね。その会館の物置には発電機も置いてあって、私たちが行った時も動かして見せてくださったんです。それを真似して市の

職員が買って家に置いた話とかを私がインターネットで紹介したら結構反響がありましたね。このアイデアはすばらしいなど。

この商品を開発した人もそうですが、見つてくるお仲間がいらっしゃるのが凄いですよね。あと、ネットで買った「救助を求む」とか、「無事」とか黄色と赤をひっくり返してひっかけられる札。これを使って避難訓練されているんですよ。



カセットボンベ式の発電機

中野さん 安否確認するのに、今まではタオルを玄関の取手に掛けてもらっていたんですが、どうしても結び方とかがあるので、たまたまインターネットで調べた防災担当からこれを買って欲しいんだと言われて揃えました。1個88円で買えましたね。

杉山さん 赤と黄色のタオルを用意するより簡単ですよ。

中野さん 無事か救助求むというのがひっくり返すだけですからね。9月に安否確認訓練をやったんですが、あっという間に終わりました。

杉山さん 黄色の札のお宅はとりあえず後にして、赤い札がかかっているか、若しくは何もかかっていないお宅を注意して見ればいいんですもんね。

中野さん そうですね。そこだけ、「大丈夫ですか」って訪問すればいいですからね。実際に使うとなると「無事です」の面には具体的に書けるようになっていきますね。

杉山さん そのカードによって歩いて玄関を見るだけで意思疎通ができるんですね。いちいち訪ねるよりも時短になりますよね。

中野さん 今年はそれを全世帯に配布しました。

杉山さん 皆さんからの反響はいかがですか？

中野さん 「これだったらいいね。玄関脇に置いて、いざという時に使える」って言ってくださる方がいました。



防災担当さんが見つけた安否確認札

杉山さん 毎回お邪魔する度に何かこう楽しくて新しい事例を教えてくださいます。最初に中野さんの所にヒアリングに伺った時には、防災担当の方もわざわざ来てくださって、すごく楽しそうに説明されてましたよね。

中野さんの所も実はスタートから大変で、いきなり浄化槽の業者が倒産したとかで自治会運営が始まったんですよ？

中野さん そうなんです。分譲した不動産会社が倒産するというのが11月とか12月にわかって、